慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	常盤, 政治
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1953
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.46, No.8/9 (1953. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19530901-0180

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

「産業の顯著な發達と、生産の大企業への著しく急速なる集中過程とは、資本主義の最も意味深い特徴の一つ」であり、これが新しい社會の物質的基盤を提供する。ここに「對立物への轉化」「矛盾」揚棄の經濟的根據が見出されるのであるが、それに照應して、いままでの學問を揚棄すべき新しい社會における學問、乃至はそれへの動的萌芽が洞察されなければならない。經濟學が資本制社會とその誕生の期を一にするものであつたかぎり、科學としての經濟學生成過程における散在的經濟學徒の巨星の擔つた歴史的役割は高く評價されなければならないが、經濟學研究の現段階においては、いまでの學問（＝研究の個別化）をのりこえるものとして、研究の共同化＝學問研究の集團化が要請されなければならないのではなかろうか。本號はかかる要請の漁業經濟研究にあらわれた一齣である。かかる意味において、今までの「特集號」とは稍かその意義を異にし、經濟學研究の個別研究から「共同研究」への發展の一時期を劃すべきものといえよう。

「共同研究」は「はしがき」に述べられているような再三再四の共同討議のうちにこそ意義を有しており、それによつてのみ理論水準を高めうるものではあるが、また、かかる共同討議のためには水準の高い「個」が要請せられることが忘れられてはならない。本號の「特殊研究」がかかる要請に耐え得ているものであるか否かは讀者諸氏の御批評に俟つほかはないが、特に内外の「獨占資本」との關聯の分析がウイークなのは「實態調査報告」の限界と言わなければならぬのであろう。

ともあれ、研究の集團化、これこそが學風推進の一齣であることが銘記さるべきであろう。（常盤政治）

昭和二十八年八月二十五日印刷
昭和二十八年九月　一　日發行

第四十六卷　定價　百四拾圓
第八・九號　送料　十二圓

編集兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部内　高村象平

印刷所　東京都港區芝三田豐岡町八　図書印刷株式会社　川口芳太郎

豫約購讀料
一年分　金八四〇圓（送料共）
半ケ年分　金四二〇圓（〃）

發行所　東京都港區芝三田二丁目　慶應義塾大學經濟學部研究室内　慶應義塾經濟學會